

赤松小三郎研究会講演会の案内

上田高校関東同窓会の赤松小三郎研究会主催の講演会が以下の要領で開催されます。同研究会の講演会は第9回目とのことです。

開催日時・場所等は以下の通りです。講演内容と申し込みは次ページのチラシをご覧ください。幕末や明治維新の歴史に興味のある方は、是非足をお運びください。

- ・ 2022年12月10日（土）14時から16時30分
- ・ 日比谷図書文化館 地下1階コンベンションホール
- ・ 参加費：1,000円

今回の講師は三谷博先生です。略歴はチラシをご覧ください。私共も事前勉強のため、図書館で『維新史再考 公議・王政から集権・脱身分化へ』（NHK出版、2017年12月発行）という三谷先生の本を借りてきて読んでみました。

東大の先生らしいまさに教科書のような固い内容ですが、幕末から明治にかけての激動の政治史を纏めて学ぶことが出来ました。

途中で、上田藩主で老中も務めた松平忠固と当研究会の主人公赤松小三郎も登場する箇所があり、講演会が楽しみになってきました。

なお、赤松関連で最近のニュースとして、昨年12月に行われた同研究会主催の講演会で話をいただいた作家の安藤優一郎氏が、8月中旬に『幕末の先覚者 赤松小三郎』という本を平凡社新書として発行するとのことです。これも楽しみです。

<https://www.hanmoto.com/bd/isbn/9784582860108>
三谷博著『維新史再考』（NHKブックス）



2022年7月19日、上原昇（2組）記

赤松小三郎講演会のご案内

2022
12月10日
(土)

講演テーマ 赤松小三郎の立ち位置

公論と暴力の比較史を背景に

講師 三谷 博氏 (東京大学名誉教授)

幕末、信州上田藩士赤松小三郎は、京都で開いた洋学塾などで多くの英才を育てるとともに、わが国の近代化に向けてのグランドデザインを描き、その実現に力を尽くしました。

残念ながら、赤松は、1867年(慶応3年)、37歳で志半ばにして暗殺されましたが、その先進的な政治思想と優れた洋学の教えは日本の近代化に大きく貢献しました。

当研究会では、今回、東京大学名誉教授で、19世紀の日本近代史などがご専門の三谷博氏をお迎えし、「赤松小三郎の立ち位置—公論と暴力の比較史を背景に」をテーマにお話をお伺いします。



赤松小三郎 上田市立博物館蔵

日時: 2022年12月10日(土) 講演14:00~16:30(受付開始13:30)

会場: 日比谷図書文化館 地下1階コンベンションホール(裏面案内図ご参照)

参加費: 1,000円(当日会場受付にて申し受けます)

定員: 100名(先着順 お早めにお申し込みください)

講師 三谷 博氏 (東京大学名誉教授)



略歴

1950年生まれ。東京大学文学部国史学科卒、東京大学大学院国史学専門課程博士課程単位取得退学。文学博士。

1979年学習院女子短期大学専任講師、1995年東京大学教授、2015年東京大学名誉教授、東洋文庫研究員。

「明治維新とナショナリズム 幕末の外交と政治変動」(1997年サントリー学芸賞)、「明治維新を考える」(2012年)、「維新史再考」(2017年)、「日本史からの問い」(2020年)など著書多数

講師からひとこと

学生時代に上田城を訪ねたとき、赤松小三郎の碑を見つけて、その先進的な生き様に感銘を受けたことがあります。

この度、ご縁あって彼を記念する講演会にお招きいただき、とても光栄に思います。演題はその生涯の最後に起きた事件をもとに設定しました。

議会による決定は暴力ぬきに国家を統合する重要な工夫ですが、その提案自体が暴力を誘発し、命を絶たれた。

実に残念かつ不条理なことですが、これは革命にしばしばつきまとう普遍現象でもあります。

いま進めている「公論と暴力」を主題とする革命比較の国際研究会の成果を背景に、明治維新で「公議」「公論」と暴力がどう絡み合って展開したかを解説し、その中に赤松小三郎を位置づけてみたいと思います。

お申込は

赤松小三郎研究会事務局 (Eメールで事前のお申し込みをお願いします)

Eメール: kannazuki-6318@kxb.biglobe.ne.jp

(お名前、ご住所、本講演会をお知りになったきっかけなどご記入ください)

Eメールをご利用できない場合: 電話: 070-2685-2384 (事務局 小山)

(提供いただく個人情報は講演会の案内などの目的で適正に取扱いとともに、目的外利用はいたしません)

主催 上田高等学校関東同窓会赤松小三郎研究会